

《平成22年度～平成26年度》

宮崎市中期財政計画のポイント

(平成23年度ローリング)

「自立した、持続可能な財政」の実現を目指して

★目次★

はじめに 中期財政計画の概要	…1
ローリング(見直し)の目的と方法	…2
ローリングの結果①(試算の結果)	…3
ローリングの結果②(試算の比較)	…4
ローリングの結果③(試算の検証)	…5

平成23年10月
宮崎市企画財政部財政課





はじめに 中期財政計画の概要

★中期財政計画とは

- 宮崎市の財政運営の基本的な指針。理想とする財政のすがた「自立した、持続可能な財政」を実現するための取り組み(財政健全化対策・財政目標)をまとめたもの。普通会計を対象とする。

★計画期間

- 平成22年度から平成26年度まで

★主な財政健全化対策

- 歳入
市税の収納率向上、市債発行額の抑制(「元金ベースのプライマリーバランスの黒字化」厳守)
- 歳出
行政運営経費の削減(人件費・普通建設事業費・補助費等・物件費)

★財政目標

目標1	市債残高を150億円以上圧縮(対H21比 普通会計ベース)
目標2	財政5基金残高を200億円以上確保 ※財政5基金:財政調整基金、公共施設整備等基金、財源対策債等償還基金、土地開発基金、地域振興基金
目標3	行政運営経費を100億円以上削減(対H22比 H26までの合計 一般財源ベース) ※行政運営経費:人件費、普通建設事業費、補助費等、物件費



ローリング(見直し)の目的と方法

★23年度当初予算編成における成果

- 中期財政計画にもとづいて予算編成に取り組んだ結果、いずれの財政目標も達成し、「自立した、持続可能な財政」の実現に向けて一定の成果を上げることができた。

★ローリングの目的

- こうした成果を踏まえ、「収支不足の解消」と「財政目標の達成」を図り、「自立した、持続可能な財政」を実現するため、将来の財政運営に影響を与える要素を織り込んで、昨年度に試算した財政収支をローリング(見直し)し、適切かつ効果的に財政健全化に取り組む。
- ローリングの結果は、24年度当初予算編成に活用する。

★ローリングの方法

- 昨年度の財政収支試算をもとに、次の要素を反映させて歳入・歳出を試算する。

※反映させる主な要素

- 内的要素～22年度決算、23年度予算
- 外的要素～国の「中期財政フレーム(24～26年度)」・「概算要求組換え基準」・「地方財政収支の仮試算(23年9月発表)」、各種制度の改正、社会経済情勢の変化

ローリングの結果①(試算の結果)

★平成22年度時点(ローリング前)

※普通会計ベース

(単位:億円)

区分	H21決算	H22予算	H23計画	H24計画	H25計画	H26計画
歳入①	1,545	1,467	1,447	1,457	1,460	1,452
歳出②	1,518	1,467	1,483	1,471	1,467	1,448
収支①-②	27	0	▲36	▲14	▲7	4
市債残高	2,139	2,119	2,087	2,051	2,014	1,976
財政5基金残高	252	225	204	201	209	214
行政運営経費削減額 対H22比・一般財源ベース	—	—	6	23	38	56

★平成23年度時点(ローリング後)

※普通会計ベース

H24-H26の収支を試算

(単位:億円)

区分	H21決算	H22決算	H23予算	H24計画	H25計画	H26計画
歳入①	1,545	1,556	1,503	1,471	1,468	1,474
歳出②	1,518	1,528	1,503	1,498	1,477	1,473
収支①-②	27	28	0	▲27	▲9	1
市債残高	2,139	2,119	2,086	2,062	2,028	1,989
財政5基金残高	252	244	233	216	219	220
行政運営経費削減額 対H22比・一般財源ベース	—	—	6	11	40	45

※市債残高に公立大学の債務承継分は含まない。

ローリングの結果②(試算の比較)

★歳入・歳出の比較(24年度から26年度までの合計額の差)

- 歳入は市税と地方交付税などの伸びによって44億円増となる見込み。
- 歳出は社会保障関係費(扶助費・繰出金)の累増によって62億円増となる見込み。
- 主な科目の増減とその要因は次のとおり。

(単位:億円)

区分 (増減)	主な科目	増減額	増減の主な要因
歳入 (+44)	市税	+21	住民税・法人税・固定資産税10億円増、たばこ税10億円増
	地方交付税	+7	地方財政計画の伸び(22年度試算時点⇒23年度試算時点+1.2%)
	国県支出金	▲5	国庫支出金21億円減、県支出金16億円増
	市債	+8	地方債充当率の改正(道路債75%⇒90%)
歳出 (+62)	人件費	+7	議員年金制度廃止に伴う給付費負担金の増
	扶助費	+38	生活保護費35億円増、乳幼児医療費補助3億円増
	繰出金	+28	国民健康保険特別会計繰出金35億円増、その他特別会計分7億円減
	普通建設事業費	▲12	国庫補助事業10%減、市単独事業±0%

ローリングの結果③(試算の検証)

★ローリング後の財政収支

- 昨年度時点よりも、歳入は市税や地方交付税の増収によって44億円増となるものの、歳出も予想を上回る社会保障関係費の累増によって62億円増となり、収支は18億円悪化する見込み。
- しかしながら、引き続き徹底した行財政改革に取り組むことにより、26年度には収支不足を解消できる見込み。

★ローリング後の財政目標

- いずれの目標も達成できる見込み

目標		見込額	達成度
目標1	市債残高を150億円以上圧縮 (対H21比 普通会計ベース)	150億円圧縮	達成
目標2	財政5基金残高を200億円以上確保	220億円確保	達成
目標3	行政運営経費を100億円以上削減 (対H22比 H26までの合計 一般財源ベース)	102億円削減	達成

★ローリングの結果は予算編成に活用

- ローリングの結果は24年度当初予算編成に活用し、財政健全化路線を堅持する。
- 今後も当初予算編成に合わせて、毎年度ローリングを実施し、「自立した、持続可能な財政」の実現を目指す。